第８回下野市行政改革推進委員会　会議録

日　　時　　平成２９年　１月２６日（木）　午後３時００分～４時３０分
場　　所　　下野市役所２０３会議室
出席委員　　杉原弘修会長、飯島陽子委員、関口博之委員、小久保武委員、飯野洋委員、水上美紀委員、長光博委員、大木徳委員、園部小由利委員、中林佳子委員
欠席委員　　なし
庁　　内　　広瀬市長、板橋副市長、長総合政策部長、山中総務部長、布袋田市民生活部長、小口健康福祉部長、高徳産業振興部長、石島建設水道部長、川俣議会事務局長、若林会計管理者、坪山教育総務課長（教育長・教育次長代理）
事 務 局　　星野総合政策課長、古口主幹、猪瀬副主幹
傍 聴 者　　なし

○次第
１　開　会
２　あいさつ
３　議　事
（１）会議録署名人の指名
（２）第５・６・７回下野市行政改革推進委員会会議録の確認について
（３）平成２８年度下野市行政評価市民評価報告書（案）の確定
（４）その他
４　平成２８年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
５　市長等との意見交換
６　閉　会

○開会
（事務局）　平成２８年度第８回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

○あいさつ
（杉原会長）　既に１月も末でございますが、明けましておめでとうございます。本日は本年初めての会議であり、今年度最後の会議でもあります。本日もよろしくお願いいたします。

○議事
（１）　会議録署名人の指名
（杉原会長）　今回の会議録署名委員を指名します。本日は、飯野委員・大木委員にお願いいたします。

（２）　第５・６・７回下野市行政改革推進委員会会議録の確認について
（杉原会長）　それでは、第５・６・７回下野市行政改革推進委員会会議録の確認について、事務局から説明をお願いします。
（事務局）　会議録ですが、事前に委員の皆様へ配付し、確認していただきました。

他にご意見等なければ確定とさせていただき、会長と署名人の委員に後程署名をお願いしたいと思います。以上です。

（杉原会長）　事務局から説明がありました。各委員より改めて修正意見がなければ、この内容で確定し公表したいと思います。

（３）　平成２８年度下野市行政評価市民評価報告書（案）の確定

（杉原会長）　それでは、前回の委員会で協議・決定しました市民評価報告書（案）について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）　報告書（案）について、事前に委員の皆様へ配付し、確認していただきました。修正については、特にございませんでした。本日は、報告書（案）の確定ということで、ご協議いただければと思います。以上です。

（杉原会長）　皆様には既にご確認いただいており、修正等がございましたら、お申し出ください。どなたからも修正等のご意見がございませんので、報告書（案）につきましては確定させていただいて、市長へ提出することといたします。

（４）　その他

（事務局）　本日の会議録については、この後の報告書提出と意見交換の内容を含めて作成し、調整次第、郵送にて送付させていただく予定です。内容等をご確認いただき、訂正等については返信用封筒を同封いたしますので、ご報告ください。その後、署名人の方へ郵送或いは自宅までお持ちし、ご署名いただく予定でおります。最後に杉原会長のご署名をいただき、会議録を確定させたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

（杉原会長）　それでは、本日予定された議事はこれで終了いたしました。続きまして、市民評価報告書の提出になりますが、一度進行を事務局に戻させていただきますのでよろしくお願いします。

（事務局）　この後、３時３０分から市民評価報告書の提出になりますが、準備等お時間いただきたいと思いますので、少々お待ちください。市民評価報告書の市長への提出については、杉原会長からしていただきたいと存じます。そこで、写真撮影をしていただき、その後、意見交換会ということで、杉原会長には座長となっていただき、市長・副市長のほか各部長が出席させていただきますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○平成２８年度下野市行政評価市民評価報告書の提出

（事務局）　それでは、市民評価報告書の提出になります。杉原会長から、市長への報告書の提出となります。

（杉原会長）　平成２８年度下野市行政評価市民評価報告書、平成２９年１月、下野市行政改革推進委員会、会長杉原です。委員の皆様を代表して、報告書を提出いたします。よろしくお願いいたします。

（広瀬市長）　ありがとうございます。

○市長等との意見交換

（事務局）　続きまして、次第５、市長等との意見交換となります。本日の会議には市長及び庁内行政評価委員会委員が出席しております。ここで委員の皆様と

の意見交換を行いたいと思いますが、その前に市長からあいさつをさせていただきたいと思いますので、市長よろしくお願いいたします。

（広瀬市長）　改めまして、皆様こんにちは。平成２８年度第８回行政改革推進委員会ということで、只今、杉原会長より委員会の市民評価報告書を頂きました。皆様方には昨年から数回に及び会を重ねていただき、２３６事業の中から１０事業を抽出し、一つ一つご検証いただいたということ、そして、１０事業のうち６事業が「妥当」、残り４事業が「おおむね妥当」との評価結果について報告いただいております。市民の皆様に対して我々が実施してきた内容や不足している部分、また、今後実施していかなくてはならない内容など、様々な活動から改めて検証させていただきながら、一つ一つ動いていきたいと考えております。今まで部局が６か所に分散しておりましたから、ややもすると他部局の動きというものが見えないといったことがあったかと思いますが、下野市も１０年目にしてようやくこの庁舎が完成いたしまして、１つの場所で様々な業務を開始することができました。この委員会終了後に職員提案の表彰式を予定しているのですが、その職員提案の内容を見ましても、１か所に集まったことにより、違う部局との連携や違う部局への意見が出てきたとの発見もございました。そういったことを加えながら、今度は改めて評価をいただきまして、市民の皆様のために動いていけるように全精力を傾けながら次のステップへ邁進したいと考えておりますので、今後ともご指導の程よろしくお願いをいたしまして、この後皆様との意見交換となりますので、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）　ありがとうございました。それでは、杉原会長に座長をお願いし、意見交換を行いたいと思いますので、杉原会長よろしくお願いいたします。

（杉原会長）　それでは、大変僭越ながら、意見交換会の進行をさせていただきます。皆様よろしくお願いいたします。どなたからということもありませんので、皆様、ご自由にご意見等発言なさっていただいて、また、せっかくの機会でありますので、この報告書の内容に関わらずいろいろご意見いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、最初に私の方から申し上げますと、この報告書の１ページ目「はじめに」のところで、私たち委員会において共通する考えとしまして「この報告書が市民に周知され、市民が市政に参加するきっかけとなり、「協働のまちづくり」が展開していくこととなれば幸いである。」といった思いがあり、その共通する思いを込めて報告書を提出しましたので、よろしくお願いいたします。それでは、委員の皆様いかがでしょうか。

（関口委員）　私は、長年この委員会に携わっております。今回選んだ１０事業ですが、勉強したいと選んだ事業と、意見があるとして選んだ事業とありました。逆に、市の方から、この委員会の中で意見を求めたいとするテーマがあってもいいのではないかと考えました。例えば、９番目の重要給水施設配水管更新事業ですが、委員会として意見を言うのが大変難しい事業でありました。反対に、２番目の公用車管理事業ではいろいろ意見が出されまして、

「おおむね妥当」の評価でありますが、分析の方法が甘いのではないかといった意見などたくさん出されました。特に気になったのは、４番目の児童館共通事業でして、委員会でも指摘しましたが、学童保育室との区別等が理解できず混乱しました。

（杉原会長）　最初のご質問に関連しまして、委員の皆様が理解に苦しむところは、審議会との違いでして、審議会では、具体的なテーマを審議会で諮問されて、それに対して答申をするといった形になり、市からこういうことを審議して欲しいと具体的な内容を示し、それを一定の期間審議されて答申をするというものですが、この委員会はそうではなく、報告書という形で、自由に問題設定をして、委員会で報告書をまとめるといったものであります。このあたりの違いを、市の方ではどのようにご説明していただけるのかということで、簡単な差異だけでもお願いしたいと思っております。審議会はプロフェッショナルな内容であり、委員会はそうではなく性質が違うといった、分かり易い説明をしていたければ、皆様の今後の参考になるのではないかと思います。

（事務局）　今、杉原会長からありました審議会との違いでありますが、行政改革推進委員会で取り扱っていただいている作業の流れにも特徴があると思います。市の内部において評価があり、その内部評価が妥当であるかどうか評価していただくのが市民評価であります。そのプロセスにおいて、委員の皆様から対象１０事業を選定していただく作業があり、選定された事業について個々にヒアリングを実施し、委員の皆様の総意をまとめた報告書を作成するということで、調査・審議をする審議会以上にきめ細やかな作業をしていただいている認識でおります。尚且つ、私どもの自治基本条例の理念であります「協働のまちづくり」に資するという特徴があり、そういったことで区別させていただいており、審議会とは性格の異なるところだと思います。

（杉原会長）　ありがとうございます。そうしますと、我々のこれまでの８回の審議とそれをまとめた報告書は、この委員会として相応しい内容と考えてよろしいわけです。市側が求めていることと、我々の審議のやり方との間に齟齬はなく、非常にスムーズに８回の委員会が実施されたと考えてよろしいわけです。そのあたりが気になりまして、関口委員のご質問に追加して、私の方からお尋ねさせていただきました。

（大木委員）　新規就農総合支援事業ですが、その中には経営開始型と準備型がございまして、いずれも国の事業であり、簡単に言えば受け売りの事業でありますが、市でこういった事業を受けるのであれば、もう少し迫力のある中身、あるいは市独自の取組などあってもいいのではないかと感じました。特に、準備型といった研修中の方を支援するということで、これ自体は県の事業とのことでありますが、市でもこの準備型受給者を把握しておくことも大事であると思います。今年の６月に、石橋地区に都市農村交流施設が完成し、そこには研修室などもあると伺っておりますので、準備型受給者の支援も可能であると思いますが、いかがでしょうか。

（産業振興部長）研修先のお話でありますが、準備型ということで、４５歳未満の方が就農するにあたって、農業を勉強するために研修をするわけですが、その研修先は、県農業大学校や先進農家としており、下野市内には１６名の農業士がいらっしゃいますが、そういった農業後継者を育成するなど活動している農業士や、また、認定農業者といった制度の中でいろいろな団体などの役員など幅広く活動されている方を、県では研修の受入れ先として認めております。また、法人であれば、市内にありますトマトパークなどが受け入れ先となっており、準備型においては、そういった研修の受入れ先を県で指定するという形になっておりますので、今回の都市農村交流施設ですと、まだそういった資格を持った施設ではないので、今後、体験型のものは可能であると思われますが、農業者の育成までできるかどうかは、まだ、その段階まで行っておりませんので不明であります。現在の下野市では、認定農業者や農業士の方がその研修の受入れの場として活動されている状況であります。なお、新規就農者向けの市独自の事業ですが、これまで目新しい事業がございませんでしたので、新年度から新規就農者向けの補助事業など取り入れていきたいと考えております。

（長委員）　私は、重要給水施設配水管更新事業に非常に関心がありまして、現在、市の水源はすべて地下水であります。表流水と言っても、鬼怒川くらいしかないのではないかと思いますが、漁業権の問題もあり難しいと思います。そういった中では、地下水に頼らざるを得ない状況も無理ないのではないかと思いますが、将来的に渇水に備えるのであれば、鬼怒川西岸の伏流水の確保についても計画の中に位置付け、水源を確保していく必要があるのではないかと考えます。

（広瀬市長）　表流水については、思川の他にも水源を確保した方がいいということで、鬼怒川の話をされたと思います。現在の人口状態からは地下水だけでも大丈夫であると思われますし、今のところ問題はありません。しかし、市の地下水源でも亜硝酸態窒素などが検出されることがあり、表面上の近いところでは検出されて当然のものですが、地下６０ｍから８０ｍの深いところで検出されているということは、かなり上流域の方から混入されているのではないかと推察しますので、第２・第３の補完できる水源を確保しておく必要があると考えております。ただ、現時点においては、水資源機構との検討の話で、思川といった方向で議論が進められているところであり、はっきりとした方向性が出されているわけではございません。思川と鬼怒川といった形になりますと、鬼怒川の方には県が所有する工業用水が西鬼怒方面にあるのではないかという話になりますが、あれは鬼怒川の左岸になりますので、それを右岸まで通してさらに下野市までとなりますと、相当大規模な工事となることが予想されますが、こういった部分についても、安全安心の観点から２重３重のセーフティを考えながら進めて行くことが大事であり、県にも伝えておかなくてはならないと思っております。水というものは、問題が発生してからすぐに動かせるものではありませんので、ある程度長い期間でもってしっかりと考えていかなくてはならない問題で

あると思いますので、今のお話を十分胸裏に留めながら、しっかりとそれに対しても話を進めていくような準備を取るようにしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（飯島委員）　私の趣味は街道歩きであり、東海道や中山道を歩くのが趣味なのですが、ある市や町に歩いて入っていきますと、その町の雰囲気が分かるものです。元気のいい町や、元気のない町などが、車ではなく歩いているとなんとなく感じられる部分があります。そこで、下野市はどうなのかと言えば、特別元気がない訳でもなく、清潔で良い市ではあるのですが、駅を降りた時にインパクトがないのです。例えば、元気のある町は駅を降りた途端元気なのです。観光に力を入れているということもあり、その町の売りがどこにあるのか分かるようになっているのですが、小金井駅を降りますと、隣には観光案内所がありますが何か寂しいのです。東京でＰＲ等実施することも大事であり、観光プロモーションでいろいろ考えていらっしゃると思いますが、他県の方が下野市に降り立ってここを観てみたいといったインパクトのあるものを、駅前で実施していただきたいのです。そのためには、まずシャッター通りを改善しなくてはなりませんし、駅周辺の活性化について、もう少し本腰を入れていただけたらありがたいと思います。自治医大は元気なのですが、小金井は寂しいです。せっかく国分寺や薬師寺などの観光スポットが充実しているのに、ちょっと勿体ない気がします。それから、点と点ばかりなので、それを線で結ぶ観光ルートが欲しいなとすごく思っております。

（広瀬市長）　新聞にも掲載されておりましたが、下野市ができて１０年が過ぎ、現在、都市計画マスタープランの見直しに入っております。旧町が持っていた計画を練り直しながら、新しい市として一つにまとめてやってきましたが、今、１０年を振り返った時にどうなのかと言えば、人口がそこまで増えていないではないか、宅地がまだ余っているのではないか、そういった状況であります。人口は増えていないが世帯数が増えている状況があり、これはどういうことなのかと言えば、新宅ができているような状態であり、また、先ほどお話があったように、駅周辺が活性化しているかと言えば、自治医大は別として、小金井と石橋は寂しくなってしまっています。小金井駅もそうですが、石橋駅周辺を歩いてみますと、買い物ができるところがなく、お年寄りは危なくて国道を渡って行くことができないため、駅側の近所にコンビニなどの店舗を作ってもらえないかといったお話をいただきます。そこで、立地適正化計画では、駅を周辺に半径１㎞のゾーニングをし、その中でもう一度人を動かしながら、企業を引っ張り込んで、そこに新しい人の流れと、企業の誘致的な要素を強めたものを展開していく方向で、今それを動かしております。ここは非常に交通の便が良い所であり、東京から楽に帰って来られる所なのですが、市内の駅で降りる方々を見ていますと、これから飲みに行こうではなく、これから家に帰るぞといった方しか見受けられない状況であります。各々の駅に到着し、ホッとしたところで、もう少し遊んで行ってもらえるような所がないかなといった部分、

これにより賑やかになったところで、市には歴史がございますから、今度は下野市を目的地として来てくださるお客様が楽しめる部分、市のマスタープランの見直しの中にある立地適正化というものを十分活かして、地元の住民も駅周辺で楽しめる場があって、観光でいらっしゃった方も、史跡を巡った後に駅周辺でちょっと楽しんで帰ってもらう、こういった構図を作っていけたらと思っています。地方創生交付金を活用しながら、総合政策課では、下野市のＰＲ・ビラ配りなどを、ふるさと回帰センターのある有楽町の東京交通会館あたりで実施しておりますし、先週は同じ所でＵターン・Ｉターン向けの講座など実施しておりますので、現在はセカンドステージに向けた取り組みを頑張っているところであります。いろいろなご意見をいただいて、効果的に展開していけたらと考えております。

（飯島委員）　市内で墓地を購入する方が増えていると聞きます。つまり、他所から来た方で、ずっとここに住んでいこうという方が結構増えてきているのではないかと思います。転勤で来られた方で、ずっとここに住み続けたいと思う方が多くいらっしゃるということは、すごくうれしいことだと思います。

（広瀬市長）　そういった方をもっと増やしてもらえたらありがたいですし、私たちも、ここに一度住んだら他の街にはもう住めない、といった街を作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（関口委員）　私はコミュニティ等の事業を行っていますが、小金井駅西口あたりは子どもが少なく平均年齢がすごく高いのではないかと思っています。若い方は、外に家を作って出て行ってしまいますから、どんどん寂れていってしまう悪循環となっています。反対に、ちょっと離れた所では、どんどん家が建っている状況であります。駅のすぐそばの２００ｍくらいの範囲で、若い人がほとんど見られないのです。

（広瀬市長）　石橋でも、昔は、駅前の通りで初市や暮市などの市が開かれておりましたが、いつの間にか市が立たなくなって、それを今、商工会等で復活させるという動きを出してくださっています。駅前には昔からの家が連坦していますので、新しい若い方が新たに車を買っても、敷地内に駐車できない状況などもあり、少し自由に区画が取れるような土地を買って、外に出られるといった方が多いのではないかと思います。立地適正化を上手に活用しながら駅周辺を少し活性化させて、そして、ある程度整理整頓のようなことをしていかないと、最悪な場合、駅周辺すべてが低価格の駐車場になってしまうのではないかと危惧しております。それではあまりにも寂しいので、しっかりと人が息づくような形をもう一度考え直さなくてはならないのではないかと思います。１０年経っているのに、なかなか人口が増加しないという状況、人口は増えていないが人口を留めているということで力があるとも言えますが、市のポテンシャルからすればもう少し増加させなくてはならないと感じますので、そこで何が必要かと言えば、宅地が余っているのに人口が増えないのではなく、余っている宅地は住みづらいから買わないのだと、そうであれば、もっと住み良く必要とされる新たな宅地計画も必要ではないかと思いますので、そういったものも、この１０年と

いった中で見たうえで、新たな施策に入っていきたいと思います。

（杉原会長）　宇都宮市からこちらに来るのに新４号国道を通っておりますと、車がとても混んでいる場所が２か所だけあります。１つはインターパークであり、もう１つは道の駅しもつけであります。道の駅も相当儲かっているというお話でありますが、第２弾はどこなのでしょうか。道の駅の儲けというものは、この下野市の企業の中でも上位に位置するのではないかと思いますし、あれだけ儲かる企業ができるのですから、下野市がテコ入れしてまた新しい事業を計画されているとすれば、例えばどのような方面でどういう儲け方をするのか、市長が次の儲かる事業をどのように考えてらっしゃるのかとても興味があります。

（広瀬市長）　市が儲けるのではなく、市民の方に儲けていただく、また、儲かる仕組みを企業に考えていただく、そのきっかけ作りを市はやらなくてはならないと思っております。マスタープランの改定は、その大きな火付けのネタになるものと考えております。確かに、道の駅は利益を出させていただいております。利益を出す根底には、出荷者の真面目さがあります。良いものを出してくださるので、お客様が減らないのです。それが一番なのではないかと思います。平日でも３百万円からの売り上げがあり、土日では８百万円、９百万円と当たり前のように売れて、この前は、限界と思われていた１千万円を超えた日が出てきました。これは、良いものを置いてくださる出荷者がいて、道の駅しもつけであれば良いものがあると思って来てくださるお客様がいることが､強みであると思います｡今考えていることは、利益の分配という訳でもないのですが、銀行や商工会などたくさんの出資者の方にはもう少し待っていただいて、利益を単純に貯めるのではなく、三王山のふれあい館の指定管理を道の駅で受けさせています。市の運営では約８千５百万円掛かっていたところ、２千万円減らして約６千５百万円で指定管理を受けさせていますので、同じ状態であれば利益をそこに投入しなくてはならないわけであります。これについては連結決算により実施することとし、道の駅の力でもって、三王山の方にもたくさんの人の流れを作っていただき、そこでも収益を上げ、その指定管理委託費でも指定管理ができるように運営していただきたいと、また、それでも足りない部分については道の駅の収益で賄ってもらう、といったようなことで、ある意味、利益の市民還元といったことになるのではないかと思います。三王山においては、キャンプ場やドッグランなどがあり、来年度には古墳を中心とした体験型公園が完成いたしますので、ここに新たな人の流れができるようにし、直接儲けるのではなく、人を動かしながら、人の交流でもって定住人口を増やしていけたらいいと思います。また、下野市はおもしろい所だよねといったきっかけ作りで来てもらい興味を持ってもらう､これが、次に下野市が動く大きな原動力となっていくのではないかと思うのです。昨日、ソフトバンクで社会貢献プログラムという全国１７自治体に５０台から７０台のＰｅｐｐｅｒを無料で貸し出し、子どもたちにプログラミングとＰｅｐｐｅｒを繋げて動かすといった授業をするといった事業に、下

野市が選ばれました。関東では、他に東京都港区・狛江市・町田市だけであります。そういった意味で、子どもたちにいろいろな発見をしてもらう、発見することによって子どもたちは感動する、感動することでもっと新しい発見をしようという、この無限のエネルギーをどんどん中で動かしてもらって、下野市自体の中からの熱を上げられればと思っています。すごくいいタイミングで、下野市がいろいろなところから注目されているなと思っています。ソフト事業の件について、この後、ＮＨＫなど各メディアでも順を追って紹介していただけると思います。立命館大学の理事長が昨日は来ており、立命館大学の附属学校で先行的に実施していたものを、いろいろなシチュエーションで各自治体の方に任せるということで動き出します。この他、明日には石橋高校が甲子園の２１世紀枠で出場できるかどうか発表もありますし、２月からは、下野リトルシニアの野球チームの子どもたちが日本ハムの大谷選手といっしょにＣＭに出るといったような、いろいろなところで、いろいろな動きがあります。佐野日大サッカー部が全国大会ベスト４となりましたが、そのチームのフォワードが下野市の子どもでありました。今、子どもたちが、いろいろな場面で活躍していますので、それを上手にピックアップしていき、ソフト事業の中で我々も計画を新たにセカンドステージということで作っていき、内在する熱と、ＪＲのデスティネーションキャンペーンやツールド栃木などの外からの動きにより、しっかりと下野市をアピールできるようになっていけたらと思います。次の仕掛けで儲けるというより、各企業に儲けてもらう、たくさんの人に入ってきてもらう、納めていただく税金で下野市が儲かるといった動きになってくるとありがたいかなと思います。

（杉原会長）　ありがとうございます。楽しみにしております。そういった若い方の育成においては夢がありますので、力を入れていただきたいと思います。

（水上委員）　私は、今回の１０事業の資料をいただき、いろいろ学ばせていただいた中で、一番シビアに感じましたことが、訪問型介護予防事業でありました。特に、いただいた資料の中で、国の制度改正により、市町村の自由裁量が増え、これからは市町村独自にいろいろな事業を実施していくといった形に変わるということで、厚生労働省のホームページを読んだ時に、これは本当にたいへんなことであると感じました。今、市長と会長のお話を伺っていた中で、この中で一番大事なことは、元気なお年寄りに元気なまま時を過ごしていってもらうということであると思いました。そこで儲けるということは、ひとつ良い手ではないかと感じました。お年寄りはお金を持っていらっしゃいます。下野市にお金を落としていってもらえるようなことを考えてみてはいかがなものでしょうか。お年寄りは、病院もそうでしょうが、ご自身の健康のためにはお金を使うと思います。おいしいものを食べ、楽しく過ごすということのためには、惜しまずお金を使うと思います。そこに、何か余地があるのではないかと思います。行政改革ということで、経費を削ることもたいへんですが、稼ぐのも大事だということを、今お話を聞いている中で感じましたので、ぜひ、一緒に考えていきたいと

思いますので、よろしくお願いいたします。

（広瀬市長）　不安があるからお金を使わない、また、安全安心であっても、誰が面倒みてくれるのかと言えば自分のお財布であるとよく言われますが、いや違いますよというようにしていかなくてはならないと思います。老々介護というのではなく、隣近所の助け合いでいろいろ話ができるような関係を、新たな繋がりの中で昔のような関係性を築いていく、その中で拭いきれない不安については、行政で一生懸命手直ししていくといった取組みをしていくべきと考えます。ややもすると各自治体でサービスに差が出て来てしまうような形で厚生労働省が出していますが、私は反対であります。命に関することと、心の平穏をもたらす部分と教育は、国がしっかりとして安心させなくてはならないものであります。我々は、現在、子どもたちの医療費を中学生まで無料にしておりますが、宇都宮市より北は、高校生まで無料としております。そうしますと、下野市でも将来的には高校生まで無料化にしていかなくてはならないといった動きになるのではないかと思います。隣あった各自治体が、このように競い合っていても仕方がないのではないかと思いますし、こういったことは国にしっかりやってもらいたいと思います。この訪問型介護についても、ある意味、形で決まったものについてはそれで実施していくのですが、その他に、民生委員にお世話になることもたくさんあると思いますが、隣近所や自治会長から提供される情報により、不足している部分や改善点、また、下野市全体を見ると外周部分の平均年齢が非常に高いのでそこを何とかしなくてはならないといったこと、いろいろな見方が出てきます。そういった部分に対して、地域でやってもらう部分と行政がどの部分を補完して行くのかを考えていかないと、全部行政でということは無理な話でありますし、地域も寂しくなってしまうように思います。

（水上委員）　行政の方で、例えば、観光プロモーションや三王山公園整備の事業を、そして、民生委員の方がちょっと三王山に遊びに行こうよと声掛けができ、健康的に体を動かす、元気な方は何かきっかけがあれば公園などに集まってきますし、また、集まりたいのではないかと思います。そういった元気な方が集まって一緒に食事をすることでお金が落ちる、良い循環をもたらす中で健康に歳を重ねていただくといった､前向きな姿勢で考えていくと、いろいろアイデアがあるのではないかと、一緒に考えていけたらありがたいなと思います。

（広瀬市長）　よろしくお願いいたします。

（中林委員）　どの事業も予算が削減されていると思いますが、小中学校の予算についても年々減らされており、やり繰りがたいへんである学校が増えていると聞きます。チョークや洗剤・トイレットペーパーなど本当に細々した物の購入のやり繰りに学校は苦慮しているというお話でした。市の健全財政のための経費削減等は十分理解できるのですが、子どもたちに係る予算についてはご配慮願いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

（広瀬市長）　予算書を見ていただければ分かると思いますが、学校にはしっかり予算を

付けているはずであります。ただ、先生たちが自由裁量で使えるような予備費的なものは厳しいと思います。市長部局の方では人件費オールカットで対応しますが、子どもたちに対する部分ということで、学校についてはアシスタントから英語の助手など年々増えているはずです。県の教育関係予算も８割方が人件費であると思います。しかし、教育関係予算が増えても、そういった細々した部分が窮屈となっている可能性もあります。下野市の教育予算では、電子黒板やコンピュータ機器など、非常に経費の掛かる時期でありますから、市の教育予算に関しては、それなりに形を作った中で予算を付けていますが、子どもたちも若干減ってきていますので、その部分についても若干減っているのではないかと思います。子どもたちには、未来を背負って行ってもらいますので、できる限りのことはしてあげたいと思っています。

（中林委員）　確かに、下野市ではスクールアシスタントなどいろいろご用意していただいており、そういった意味では非常に充実しているのではないかと思います。ありがとうございます。

（飯野委員）　税理士をやっておりますと、２代目を自分の後継ぎとして事業を継続できない方が非常に多いです。また、農業者も子どもの後継ぎがなく自分の代で終わりといったことで、これはたいへんな問題であります。個人と法人を合わせた数字ですが、栃木県の事業所数の純減率は１０％、全国平均の純減率が３．３％であり、栃木県は全国の３倍のスピードで廃業が進んでいます。よく考えますと、田舎の方では八百屋や食堂がその地域で必要とされており、儲けがあまりなくても、そこがなくなるとたいへんであるという使命感に駆られて、そこを頑張って引き継いでいるのではないかと思います。逆に、この辺りは、非常に東京圏に近く、通勤も便利であり、その厳しい事業を引き継ぐのであれば就職した方がいいといった感じで、ますます廃業率が進んでいる状況ではないかと思います。この辺のところを行政として、どのように対処していくのかが大きな問題であると私は思っています。例えば、農業においては、イチゴ農家の話ですが、道の駅に出させてもらうと、農協に出すよりも倍くらいの価格設定ができるとありました。そうしますと、そのイチゴ農家は、道の駅にそういう形で出荷できるということで、夢を持って２代目も農業をやっています。そういったお手伝いが可能なのだなあと思いましたので、難しいことではありますが、行政としてその辺を一生懸命考えていただけたらありがたいと思いました。

（広瀬市長）　ありがとうございます。飯野委員には、道の駅のことを見ていただいておりますのでよく分かるかと思いますが、下野市ではブランド事業を実施しております。水茄子を出荷している方がおり、「下野のＢナス」というその水茄子を下野ブランドとして認定し、下野ブランドというシールを作って貼るようにしました。それだけで売上げが伸びましたし、単価を上げても売上が落ちないという状況であります。道の駅の収益を上げるということは、我々にとっては地域の皆様の発展の場を作るということでもあり、そして、そこに出荷している方々の所得が上がっていってもらえれば幸いで

あるということです。ただし、今悲鳴を上げているのが、個人個人の商店であり、下野市の教育レベルが非常に高いので、それなりの学歴を積まれて学校を出て行きますと、２代目３代目の代替わりのところでは、いい会社に就職した方がいいのではと考えるところが多いのではないかという感じはします。商工会の青年部というものは、今から２、３０年前は、７割８割が商店主の子どもたちが中心で、工業主の方が２割３割でありました。それが、まるっきりひっくり返ってしまいました。商店主の子どもたちがほとんどいなくなってしまった状況であります。そういった状況を見ましても、変遷ということもあると思いますし、できる限り商店に頑張っていただきたいとも思いますが、現状において後を継ぐようにと言っても、酷な話ではないかとも感じます。ただし、農業においては違うのではないか、やり方次第なのではないかと思いますし、道の駅への出荷だけで１千万円を超している農業者が相当数いるわけです。その他、農協や個人的にも出荷しているとなれば、相当の農業所得を上げていると思いますし、イチゴに限らずアスパラガスやルッコラなどの変わった野菜を出荷している方など、要は、需要を知っていてしっかりそれに供給できるといった農家の方は、成功していらっしゃいます。ということで、ここで農家の方には頑張っていただきたいと思いますし、新規就農者に対する事業がこの報告書の中にもありましたが、新たに農家をやるというのではなく、後継者がいなくなってしまい、誰か後を継いでもらえないかと思っているところに入って来てもらうという後継事業があります。小金井で１件あり、この方は本当に縁もゆかりもない方であり、いろいろな協議をしながら、農地を借りて、農家を継ぎますということでやっており、相当の収益を上げていると聞いております。こういった方法もございますので、今、小さな商店というものは、この時代の流れの速さに商品の陳列が並びきれない状況があり、コンビニなどに持っていかれてしまい厳しいのではないかと思いますので、このあたりについては、お話にもあったように、農業者に対する施策、そして、商店の方では、私たちの方でも日頃から創業支援や資金調達の支援などを実施しておりますので、そういったことで刺激はさらにやっていきたいと思っています。

（杉原会長）　ありがとうございました。それでは、そろそろお時間でもありますので、このあたりで意見交換を終了とさせていただきます。

○閉会

（事務局）　以上をもちまして、第８回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。また、今年度８回に渡り開催させていただきました委員会が、これで終了となります。改めて、委員の皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会　長

署名委員

署名委員